

① 笹子隧道記念碑

鉄道敷設法（1892）によって、八王子もしくは御殿場を起点として甲府・下諏訪を経て名古屋に至る中央線の建設が計画されました。その目的は大きく二つあり、山梨・長野の産業発展を促すインフラの整備と、海上の敵艦船からの攻撃を受けない輸送路を確保することでした。

路線の検討が行われ、八王子を起点とする経路に決定されましたが、甲府に至るまでの最大の難所は笹子峠でした。トンネルの掘削には欧米の最新式機械を使い、約6年の歳月と、延べ作業員数 195 万 8000 人（死者 5 人）、トンネル建設費約 190 万円（トンネル前後区間も合わせると 220 万円）を費やして、1902 年（明治 35 年）11 月 5 日に全長 4656mのトンネルが完成しました。

笹子隧道完成を記念して造られたこの碑は、初め甲府駅前にはありましたが、昭和初期に舞鶴公園に移設され、1993(平成 5)年 6 月に笹子駅前に再移設されました。

前面には桂太郎陸軍大将揮毫による「笹子隧道記念碑」の文字が大きく彫られ、裏面には甲州財閥の代表の人物であり初代甲府市長を務めた若尾逸平の書による工事経緯の文が刻まれています。碑石は宮城県石巻産で、高さ 2 丈 6 尺（7.9m）、幅 8 尺 7 寸（2.6m）。

② スイッチバック跡



中央線大月駅から笹子トンネルまでの勾配は 25‰（パーミル）で、1000m 進むのに 25m も登らなければなりませんでした。当時の機関車の性能では限界値に近く、途中で止まると再スタートが難しくなります。しかし駅には停車しなければなりません。そこで初狩駅・笹子駅では、ホームは平らな所に設置し、本線より列車を引き込むことにしました。発車する時には、いったんバックしてから発車し、加速をつけて本線に戻りました。機関車の性能の向上と、1966（昭和 41）年の複線化に伴いホームを本線上に移転し、スイッチバックは解消されることとなりました。

③ 笠懸地蔵

傍らに立つ説明文によると、黒野田地区ではその由来についてはわからないままに古くから「笠懸地蔵」と呼ばれていたようです。しかし、笠石の後部に「秋葉山 安政二年卯年五月」と刻まれていることから、火伏の神の住む秋葉山と関係あるものとして『大月市の石造物』（大月市教育委員会 1993）では、「灯籠」として分類しています。そう言われてみると、笠の上に載っている玉状のものは宝珠に似ていますし、笠はそのままに、人型の部分は基礎や竿（柱）にあたるようにも見えます。おそらく頭部と笠の間には火をともし火袋とそれを支える中台があったのですが、水害や道路拡幅工事などにより散失してしまったのだと考えられます。

④ 黒野田宿



江戸時代になると、甲州街道が整備され、上野原市の犬目峠から笹子峠の間に 12 もの宿場が作られました。笹子地区には東から白野、阿弥陀海道、黒野田の 3 宿が置かれ、宿場町が開けました。笹子の 3 宿は、1 か月の宿継の業務を 3 宿が交代して果たす合宿（あいしゅく）で、小さな宿でしたがそれぞれに問屋場や本陣がありました。その中でも、黒野田宿は月の半分を勤め、笹子峠手前の最終の宿場町でもあったため、旅籠が他の宿の 3 倍以上の 14 軒もあり、たいへん賑わっていました。

黒野田宿の本陣は、門構えや一階部分の出桁造りなどに昔の面影を伝えています。

本陣とは、参勤交代の大名、公家、また幕府役人などの身分の高い人の宿泊所で、その宿場の有力者で大きな家屋敷を持つものが指定されました。時代が明治に代わり本陣はその役割を終えましたが、天皇が巡行（地方視察）した時には、休憩所や宿泊所として使われました。この黒野田本陣も、明治天皇が 1980（明治 13）年の山梨・三重・京都へ巡行した際には、笹子峠越えを前にして宿泊しています。門の右脇に建つ石柱がそのことを記念して造られた「明治天皇行在所趾」碑です。

⑤ 口留番所跡

笹子峠を越えて郡内へ出入りする旅人や荷物などの検査などを行いました。小山田信有（弥三郎）の文書にあるのが初見で、谷村藩を経て直轄地となるとまもなく廃止されたと考えられます。

⑥ 笹子トンネル扁額



1902 年に建設された笹子隧道は、現在も JR 中央本線下り線の笹子トンネルとして使用されています。

笹子側のトンネル入り口には建設当時のままに伊藤博文揮毫の「因地利」、甲斐大和側には山縣有朋揮毫の「代天工」の扁額が掲げられています。

⑦ 黒野田一里塚跡

江戸幕府は、五街道を整備するにあたり、日本橋を基点として一里ごとに道の両側に五間（約 9m）四方、高さ一丈（約 3m）の土盛をし、榎・松・櫟・杉・樅などを植えて、一里塚を建設しました。当時の旅人にとっては、旅程を測る目安とともに、この一里塚は、人夫や馬の駄賃を計る目安となったり、休息や雨宿りしたりする格好の場所として大変重要な存在でした。『甲州道中宿村大概帳』によると、黒野田一里塚には松が植えられていたようです。

⑧ 葦（よし）が池碑



この碑が建つ一帯は、かつては沼地で、稲村神社前にある説明板によると「三丁歩（9,000 坪）余り 葦ヶ窪郷の四分の一をしめ」るほどの広さがあったようです。

また、この葦が池に身を投げた娘「よし」が毒蛇に身を変えて村人や旅人を悩ましていたところ、親鸞聖人が小石に「南無阿弥陀仏」の六字の名号を墨書して池に投げ入れて成仏させたという言い伝えや、「池には葦草が群れ、低地なる故に葦ヶ窪の地名起源とも伝えられる」との地名の由来についても書かれています。

葦ヶ窪村は、吉ヶ窪村、吉ヶ久保村を経て現在の吉久保の文字を用いることとなりました。

⑨ 稲村神社



門前の説明板には、嘉暦二（1327）年の創建、吉久保、原の氏神で、国常立尊（クニノトコタチノミコト）、素盞雄尊（スサノヲ、スサノオノミコト）、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）、稲田姫尊（イナダヒメノミコト）の 4 神が祀られているとあります。

境内には、一つの根方から三本の幹が聳える見事な大杉や、「社中二大ナル男根石アリ、長四尺五寸許り、陰囊備ハレリ、道祖神ニ祭ル」と『甲斐国志』に書かれている道祖神をはじめ、様々な石造物があります。

⑩ 大鹿川の巨石

明治 40 年の大水害の時、大鹿川より流れ下ったものとされています。現在、半分以上が地中に埋まっているためその大きさがわかりませんが、土石流の激しさを示すものとして『山梨縣水害誌』に掲載されている巨石の写真の註には「長さ八間巾六間」とあります。

⑪ 子神社

祭神は大国主命（おおくにぬしのみこと）で、1520 年代の創建とされています。1975（昭和 50）年中央自動車道建設に伴い、現在地に遷座されました。

その際に建立された建設記念碑には、明治 40 年の水害の時、この神社の神徳により氾濫の流れが変わり、白野地区が流失を免れたとの件が刻まれています。

⑬ 道祖神

⑭ 白野山宝林寺



⑮ 立石坂の立石

A photograph of three large, weathered stone markers or grave stones standing in a grassy field. The stones are arranged in a row, with the central one being the largest and most prominent. The background shows a dense line of trees and foliage. The ground is covered in grass and some low-lying plants. The stones appear to be made of a dark, possibly granite or basalt, material. The central stone has some faint, illegible markings on its face. The other two stones are smaller and also have some markings, though they are less clear. The overall scene suggests a quiet, rural cemetery or memorial park.

令和2年度 郷土の歴史探検ツアー

笹子三宿の見所を巡るツアー

大月市郷土資料館

2020年11月28日(土)

